

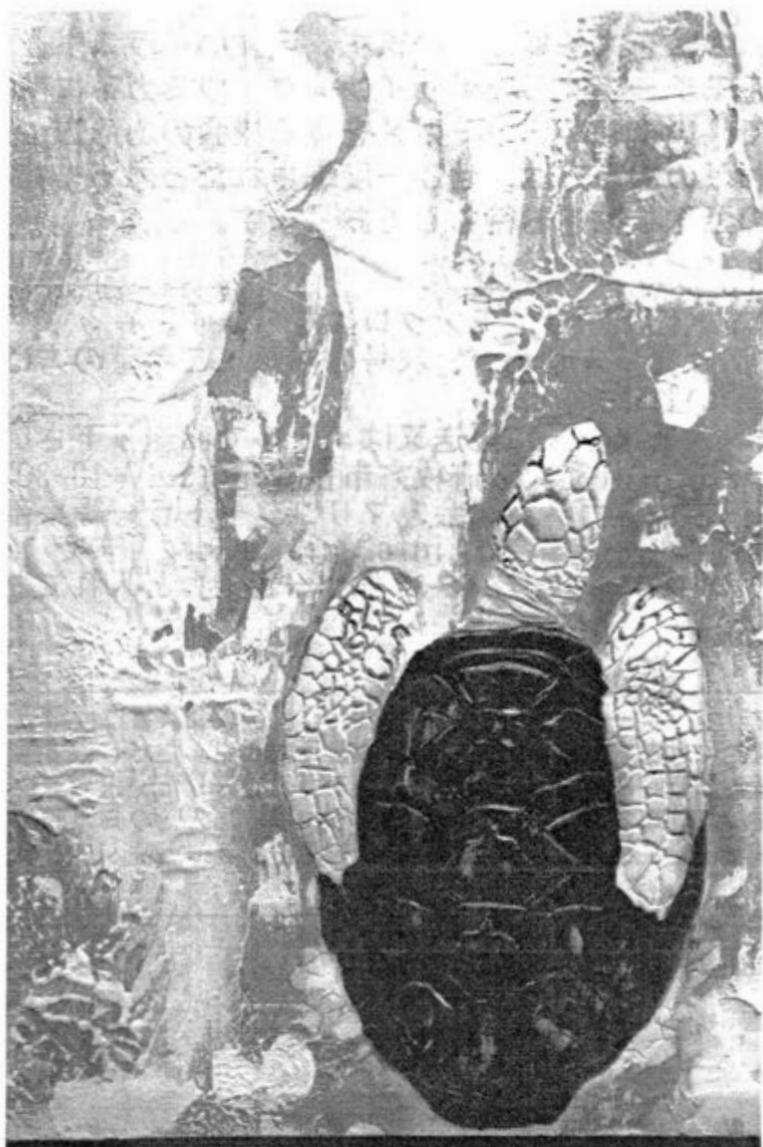


# Marine Turtler

マリンタートル

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第12号



## 表紙の絵

大阪府の亀岡温美さんが描いてくれました。現在亀岡さんは絵の勉強をされはじめられ、表紙の絵は油絵で描かれた1枚です。実際の作品は大きなキャンバスに描かれており、今回の表紙はその1部分です。白い砂浜に蒼い海が映える作品なのですが、カラーで紹介することができず、残念です。学生時代、沖縄県の座間味島のフィールドでボランティアをしており、その時ご自身のイラストがグッズに使われたことが絵の世界に進むきっかけになったとのこと。亀岡さんのご活躍を期待しております。

# 表紙の絵を募集しています。

皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなもので構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度騙されたと思って描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ：B5
- 色：自由。（仕上がりはモノクロになります。）
- 期限：×切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、お早めをお願いします。
- 応募方法：大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先：〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302  
日本ウミガメ協議会 マリントートル編集部  
※メールの場合は [info@umigame.org](mailto:info@umigame.org) まで  
件名に「マリントートル表紙」と入れてお送り下さい。

会報の名称マリン・タートル(Marine Turtle)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きの人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリン・タートルと呼ぶことを提唱したいと思います。

Marine  
**Turtler**

# Contents

## ウミガメ基礎講座 11

カメの「オデキ」と「人魚の髪」  
松沢慶将・・・3p

## マリンタートラー列伝

「初めてウミガメに関してアドバイスを受けた  
田名瀬英朋さん」 亀崎直樹・・・4p

## ウミガメの民俗 6

対馬の亀トとウミガメ 1  
-海底のアオウミガメ- 藤井弘章・・・5p

## 事務局より

日本海におけるアオウミガメの行動追跡終了報告  
文・中島悠介・・・7p

神戸空港のラグーンで実施したウミガメ保護  
結果報告 文・亀崎直樹・・・8p

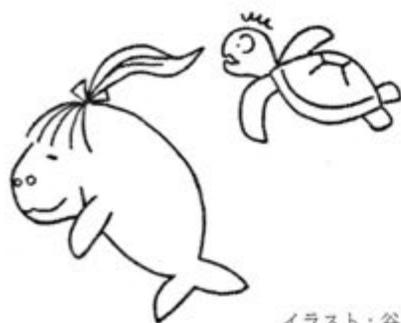
ウミガメ調査員（ボランティア）の募集・・・11p

「新取扱商品のご案内」  
「リボンマグネットを貼ってウミガメ保護」  
自宅で作れるウミガメ支援～インターネット編～  
「Seaturtle goods shopを開設」  
「インターネット募金のご紹介」  
「寄付をいただいた方」  
「事務局の主な動き」  
「編集後記」

## ウミガメ基礎講座11

### カメの「オデキ」と「人魚の髪」

松沢慶将



イラスト：谷口真理

ウミガメに「オデキ」ができることをご存知だろうか？皮膚や内臓にカリフラワー状の腫瘍ができる、フィブロパピロマと呼ばれる奇病がそれである。1937年にフロリダのキーウエストで、1958年にハワイのオアフ島でそれぞれ発見された後しばらく確認されていなかったが、1980年代にフロリダとハワイで急激に広まり、その後は世界各地で見つかるようになってきた。特にアオウミガメの幼体が多く罹患するが、アカウミガメやヒメウミガメ、ヒラタウミガメでも発症例がある。腫瘍は良性で、それ自体が原因で死に至るものではなく、また自然治癒することも知られている。という、大した病気ではないように思うかも知れないが、喉や口腔内にできた腫瘍が邪魔で摂餌が困難になったり、魚網に絡まりやすくなったりするなどの間接的なダメージがすこぶる大きい。それに、兎に角、見た目がグロテスクである。

某国立大医学部名誉教授から直接聞いた話によると、人のガンは遺伝

的要素が7割、環境が3割だそう。この奇病については、まだ原因が確定していない。奇病に罹った個体からは必ずヘルペスウイルスの一種の遺伝物質が見つかることから、このウイルスが関与していることはまず間違いない。その一方で、遺伝物質が発症していない個体からも見つかることから、複合要因がはたらいていると考えられ、汚染物質やストレスなどが取りざたされてきた。その中でも、最近特に注目を集めているものがある。熱帯性の藍藻の一種 *Lyngbya majuscula* が腫瘍の生成促進物質を持っていて、それが影響しているという説である。発症が多い海域では確かにこの藍藻が繁茂していたり、この藍藻が産生する物質の体内蓄積度と発症に関係が見つかったりするなど、状況証拠は揃いつつある。ダイバーから寄せられる目撃情報によればフィブロパピロマは国内でも急激に広まりつつあるようだ。仮に温暖化に伴いこの藍藻の分布域が日本にまで拡大してきたことが確認され、それが引き金になってるのだとすれば、いかにもマスコミ受けしそうな、刺激的な話になる。しかし、事の真偽と詳細は今後の研究を待ちたい。ちなみに、この藍藻には、英語ではその形態から「人魚の髪」というなんともロマンチックな呼び名がつけられている。

# マリンタートル列伝

## 「初めてウミガメに関してアドバイスを受けた 田名瀬英朋さん」

亀崎 直樹

私がウミガメに興味をもったのは1980年の夏のことでした。その春に知多半島にオープンした南知多ビーチランドに勤めていた私は、近所の若松海岸でウミガメが産卵しているという連絡を受けて、当時の上司であった岡本一志さんと夜の砂浜に出かけたのでした。アカウミガメの産卵をみるのはそれが初めてで、砂浜に腹ばいになって、興味深く観察したのでした。産んだ場所は海水浴場、そのまま放置するわけにはいかない。良いことか悪いことかは考えもせず、ビーチランドに卵を運んだのでした。

さて、卵を保護したものの、どのように孵化させていいのか、全くわかりません。さっそく、情報収集を始めました。その時、京都大学の瀬戸臨海実験所にある水族館でかつてウミガメの卵を孵化させたことがあるときき、電話で問い合わせさせていただいたのが田名瀬英朋さんだったのでした。

以外に知られていないのですが、日本でウミガメ類の研究が始められたのはこの実験所だといっても過言ではありません。内海富士夫博士が白浜で産卵したアカウミガメの卵を孵化させ、その発生に関する記載を海洋の科学という雑誌に載せたのは1943年のことでした。その後、西村三郎博士が勤務され、全国のウミガメに関する情報を収集整理し、日本近海のアカウミガメ、タイマイ、オサガメ、ヒメウミガメを生態学的に解析したのは1960年代のことです。その関係もあって、田名瀬さ

んも卵を孵化させたことがあったのかもしれませんが。

田名瀬さんのアドバイス通り、発泡スチロールの箱の中に砂を入れて卵を入れて孵化させることにしました。蓋はしっかりしたほうがよい、というアドバイスに、呼吸ができなくなるのではと心配した記憶があります。そのためかどうかは忘れましたが、卵の一部はニワトリの孵卵器に入れた記憶があります。そして、2ヶ月後、発泡スチロール内で孵化した子ガメが可愛かったこと。今でも手の上で動く子ガメの感触は覚えています。田名瀬さんと知り合ったのは、そんなことからでした。

私が田名瀬さんを尊敬するのは、自然から博物を学ぼうとする姿勢です。私が編集しているウミガメ速報に時々田名瀬さんからの報告が載ります。明らかになった事実のみが淡々と記録されています。そもそも生物の生活や生態というものは、こんな記録が集積されて自然と明らかにするものだと思います。その記録だけでは何も語らないかもしれないが、将来、何かを語らしたい、田名瀬さんの報告にはそんな想いを感じるのです。博物学は現代の科学の中では阻害されがちです。生物の遺伝子や生活の断片をとらえて論理を唱える生物学が重要視される現在、長い時間、多くのデータを蓄積させながら、全体を明らかにしていく博物学の大切さを、田名瀬さんの報告を見るたびに感じるのです。

# ウミガメの民俗 6

## 対馬の亀トとウミガメ 1

### —海底のアオウミガメ—

藤井弘章

2007年11月の第18回日本ウミガメ会議（種子島会議）にて、「対馬・壱岐のウミガメの生態と民俗」というタイトルでお話しさせていただきました。この発表のもととなった調査は、2007年8月に近畿大学民俗学研究所のプロジェクトで行ったもので、2008年3月刊行の『民俗文化』20号（近大民俗研発行）に詳しくまとめる予定です。ここでは、対馬の亀トとウミガメについて、対馬の中の特定の地域に絞って紹介してみましよう。

対馬の最南端に豆酏(つつ)という集落があります。ここは、亀ト(きぼく)の神事のほか、赤米の神事が今に伝わるところとして知られています。ちなみに、種子島の最南端の茎永にも赤米神事が伝承され、昭和40年代までは毎年3月に、ウミガメを食べて豊漁を祈る浦祭りが行われていました。対馬と種子島はともに南北に細長い島ですが、その南端でウミガメを捕獲し、赤米を祀ってきたというのはどういうことでしょうか。筆者自身、まだその答えは

見出していませんが、興味深い事実であると思います。

ともかく、対馬の南端・豆酏では、古代以来、ウミガメの甲羅を焼いて占いをする行事が伝承されてきました。この甲羅は淡水産のカメを用いたこともあるようですが、基本的にはウミガメであったと思われます。対馬で亀トを伝承してきたのは、豆酏だけではありません。江戸時代までは、対馬の西海岸に複数の亀トを伝承する集落がありました。江戸時代の『津島紀事』という本には、対馬の亀トに用いるウミガメは、阿連(あれ)の大野崎で捕れるウミガメを用いよ、とあります。阿連とは、西海岸の南部に位置する集落です。この『津島紀事』には、佐護の棹崎、木坂、豆酏のウミガメは用いるな、とも書かれています。これらの地域にいるウミガメは、「神間甲」(かんどいこう)とって、神がすでに海中でその甲羅に占いをしているということです。亀トに用いるウミガメを阿連の大野崎に特定した理由についてはおいておくとして、豆酏でもウミガメを捕ろうと思えば捕れたと考えられます。

『津島紀事』からはそのように読み取れるのです。

さて、実際に豆酏にウミガメはいるのか、ということを探るために、豆酏で漁業をされてきた方にお話を聞きました。豆酏ではアワビ、サザエを対象とした男性の潜り漁が盛んでしたが、潜っているときにウミガメに会うことがよくあったそうです。場所は、集落



写真1 豆酏の集落

から豆殿崎を回った向こう側（西海岸）です。この海域には、瀬がいくつかありますが、その中にカメゼという瀬もあるそうです。ここにはカメがとくに多かったといます。豆殿では海底にカメがいることを、「カメが坐つとる」、もしくは「寝ている」といいます。



写真2 カメゼ付近

米田親史さんは、アラメをかき分けてサザエを探していると、カメと正面衝突することがありました。こんなときは、こちらもびっくりするが、カメもびっくりするといえます。どのぐらいのものかと思い、カメの甲羅をもって、そのまましばらく泳ぐこともあったといえます。捕まえることが目的ではありませんから、すぐに放したといえます。末永義照さんは、父親と潜り漁をしているとき、カメを捕まえて、勢いをつけて船の上に放り上げたことがありました。船の上で待っている父親はびっくりしたそうです。

豆殿では、少なくとも昭和になってからは、ウミガメを捕ることはなかったようです。今回の聞き取りでは、ウミガメを捕まえることも、肉を食べることも、甲羅を占いに使うことも確認することはできませんでした。現在、亀卜に使っている甲羅は明治から同じものを使っているとのこと。ウミ

ガメが捕れなくなったので、という説明を聞きました。しかし、豆殿の周辺にはウミガメが多く、また、カメがいる場所についての知識もある、ということが分かりました。したがって、カメを捕まえようとすれば捕まえられる人たちがいたということになります。ちなみに、今は、瀬の海藻が少なくなって、アワビ、サザエも少なくなり、カメも見なくなったということです。

ところで、豆殿で捕まえていたウミガメは何ウミガメでしょうか。米田さんによると、カメにはセズキのカメと漂流のカメの2種類あると思う、といえます。セズキのカメとは、豆殿の海底にずっといるカメのことです。これは、若いカメが多く、5、60センチで、肌がきれいといえます。一方、漂着するウミガメは甲羅にフジツボがついたような1メートル以上のカメがあるそうです。これは南から来たカメだと米田さんはいいます。ほかの方から、漂着したウミガメの写真をを見せていただきましたが、多くはアカウミガメでした。そうすると、海底にいるセズキのカメとは、アオウミガメのことではないでしょうか。若いアオウミガメが対馬西海岸の海底にいて、それを潜りが得意な対馬の人たちが捕ることがあり、その甲羅を亀卜に用いてきた、ということではないかと思うのです。



写真3 豆殿崎

# 日本海におけるアオウミガメの行動追跡終了報告

日本ウミガメ協議会では2007年9月12日～10月5日の23日間、三井物産環境基金の支援を受けて、日本海におけるアオウミガメの行動追跡調査を行いました。対象個体は福井県三方上中郡若狭町世久見の定置網で混獲されたアオウミガメ（やよい、直甲長801mm）です。以下に追跡経緯を報告します。

9/12 11:15

福井県海浜自然センターの協力により発信機を装着した後、世久見沖約6kmの地点（北緯35.6° 東経135.8°）にて放流。

9/14 16:28（初観測）→9/17

北西方向に進路を取り、沖合へ出て行く。

9/18～9/26（9日間）

位置情報を含まない電波の受信が続く。

9/27→10/5

朝鮮半島東岸（北緯36.8° 東経129.4°）にて観測。沿岸域を半島伝いにやや南下。

10/5 16:15

精度の高い位置情報（北緯36.3° 東経129.4°）を最後に、観測を絶つ。

今回の調査は、アオウミガメの索餌回遊、季節による回遊域の変移を知るうえで重要な知見を与えてくれるはずでしたが、残念ながら23日間という短い期間の追跡に留まりました。朝鮮半島沿岸を回遊していた9月下旬は水温が下がり始める時期であり、これから南下するのか、それともこの海域に留まるのか、その動向に注目していましたが、10/5、精度の高い位置情報が続いた末、突如として観測が途絶えました。精度の高い位置情報が続くという状態は、ウミガメが砂浜に上陸して産卵する時など、発信機が長期間水中から出ている時にみられます。

今回の場合はその状況から、漁師さんの網にかかり、船上に上がったものと考えられます。だとすれば、やよいは一ヶ月足らずの間に、広い日本海で二度の混獲に遭遇したことになります。やよいの生死については分かりませんが、ウミガメを取り巻く環境はこのような危険と日々隣り合わせであることを再認識する事例となりました。また、電波の途絶えた位置から、韓国側とも直接連絡をとり、関連情報を期待しましたが、これまでその

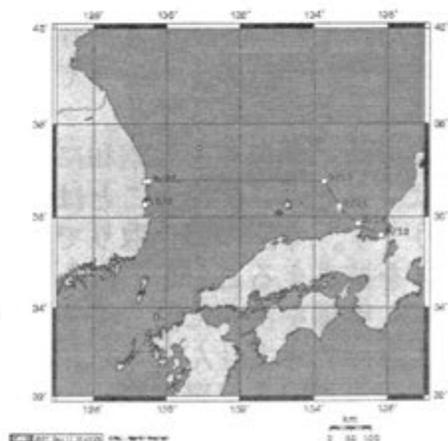
ような情報は入っていません。国境無く泳いでいくウミガメにとって、国際的な保護の取り組みも重要な課題であることは間違いありません。

最後になりましたが、本調査を行うにあたってご支援を頂いた三井物産環境基金様、ウミガメの情報を提供して頂いた世久見漁協の皆様、発信機装着、放流に際してご協力して下さいました福井県海浜自然センターの皆様様に心から感謝致します。

（文：中島悠介）



福井県三方上中郡で衛星発信機を装着して放流したアオウミガメの「やよい」



やよいの辿った経路

# 神戸空港のラグーンで実施したウミガメ保護

## 結果報告

おかげさまで  
無事放流することができました

2007年7月から12月にかけて、神戸空港島にあるラグーンで実施した、アカウミガメの保護活動について報告します。

### 1 本活動の目的

#### (1) 危険な海域での事故死を防ぐ

大阪湾や瀬戸内海は船舶の航行が多い上、イカナゴ漁など漁業活動が活発です。そのような危険な海域である大阪湾や播磨灘にウミガメが入り込むと、高い頻度で事故に遭遇し、死亡する確率が高いことが明らかになってきました。例えば、2006年に日本ウミガメ協議会は大阪湾と播磨灘で16個体のウミガメを確認していますが、その内、8個体は既に死亡しており、なかには体表にキズがついているものもありました。一方、当会では2003年と2004年に明石や小豆島からウミガメを放流し、人工衛星で追跡していますが、無事に紀伊水道から太平洋に出たことを確認できたのは4個体中1個体しかありませんでした。以上の事実より、大阪湾や播磨灘に入り込んだウミガメは、安全な場所に確保するのが人道的な処置と考えました。

#### (2) 捕まったウミガメの健康を確認して放流する

全国各地で漁師さんの網などにウミガメがかかり収容されることがあります。そのようなウミガメは調査研究の大切なデータを提供してくれるので、当会では極力調査に出かけ、標識を装着し放流してきました。その中には健康状態に問題があり、放流するのが心配されるウミガメもいます。そこで一時的にラグーンへ確保し、健康状態を確認した上で外洋に放流しようと考えました。

#### (3) 市民にウミガメのおかれた現状を理解していただく

神戸のような都市に生活していると、大自然を忘れがちです。神戸空港の広いラグーンでウミガメを探してもらい、少しでも自然に近い状態のウミガメを観察し、ウミガメに親しみを感じていただきたいと考えました。



保護されたアカウミガメ

### 2 これまでの経緯

#### (1) 市民からの意見を聞く会の開催

前述したとおり、当会で得られた様々な情報から、大阪湾や播磨灘に侵入したウミガメは事故死する確率が高いことが予想されました。しかし、野生動物を一時的でも拘束することに対する批判も当然予想されました。そこで、市民の方々の意見をきくための会議（リバイブウミガメ戦略会議）を神戸市（2/10）と淡路島由良（5/27）で開催しました。その結果、この活動に対する賛同者が多いことを確認しました。



神戸空港の人工海水池、通称：神戸ラグーン

## (2) ウミガメの收容

2007年に神戸空港で保護したウミガメは以下の6個体です。

標識番号	愛称	捕獲日	收容日	捕獲場所	性	直甲長(收容時)
① 53377, 53388	コベラ	7/19	7/27	紀伊水道	不明	716mm
② 55201	玲海(れみ)	7/20	7/27	紀伊水道	不明	725mm
③ 53376	渚	7/26	7/27	大阪湾	雄	848mm
④ 55202	港	8/2	8/2	大阪湾	雄	882mm
⑤ 53374, 53375		11/5	11/5	神戸沖	雄	847mm
⑥ 43837		11/6	11/6	神戸沖	不明	765mm

なお、①の個体は口に傷が見られ、また②の個体は左後肢が欠損していました。

## (3) 観察会を兼ねた健康診断の実施

ウミガメを收容した後、カメをダイバーによって取り上げて8/19、9/30、11/4、12/8(放流日)に健康状態を調べました。調査項目は甲長や体重の測定と、血液を採取して血糖値など31項目を測定しました。また、取り上げた際には、市民に公開し、講習会などを実施しました。

## (4) 放流

外洋への放流は12/8に紀伊水道で行いました。この日のラグーンの水温は16度で、アカウミガメの生息する温度としてはやや低い水温です。また、周囲の大阪湾の水温は18-19度で、生息するにはやや低い水温でした。このように水温が下がるまで放流日を延ばしたのは、放流されたウミガメが再度大阪湾に回遊し戻ってくることを防ぐためです。明石で1999年に産み落とされた卵から孵化した子ガメを生育させ甲長66cmに育ったカメを2個体、2003年の夏に放流した経験がありますが、その際、大阪湾の水温が19度以下にならないと太平洋に出て行かないことがわかったからです。

放流は東経135度03.575分、北緯34度15.449分の和歌山県友ヶ島の南の海上まで2隻の船で搬送し、15時に行いました。6頭とも無事に海に潜っていきました。その後の行動が心配されましたが、16日、高知県室戸市椎名の大敷網で標識番号43837が発見されました。この個体の再発見の場所を見る限りでは、当方の予想通りのようです。



放流の8日後に高知県室戸岬で再捕獲され、無事に外洋へと出て行ったことが確認できた。

△:再確認2007.12.16

### 3 結果と市民の反応

#### (1) 保護中の管理と健康状態

ラグーンで保護している間、餌を与えませんでした。これは、ウミガメがヒトに慣れてしまい、放流後に自然の餌を食べなくなったり、ヒトに近づいてしまうことを防ぐためです。ラグーンは外海とつながっているため、貝やカニ、魚が育っており、それらが餌となることを期待していましたが、実際、それらを食べた痕跡も確認できました。ただし、体重の低下がすべての個体で見られ、また、血糖も正常な範囲内ではあるが低下しており、保護している間の栄養環境に問題がある可能性が明らかになりました。健康には問題がないと考えられる範囲内の変化ではありますが、よりよい環境で保護するには今後検討する必要があるようです。また、口に障害のある個体と左後肢の欠損した個体は、観察によりとりあえずその行動から生きるのに支障はないと判断し、放流しました。また、後肢の欠損個体については、レントゲンによって、かなり以前に大腿骨の途中から切断されたことが確認でき、サメによって障害を受けたと考えられました。

#### (2) 市民の反応

保護の期間に千人以上の市民がラグーンを訪れ、ウミガメを観察しました。当会から派遣したアルバイトからの報告によれば、様々な思いでウミガメを見に来る市民がいたことがわかりました。自然が好きでたまに水面から頭を出すウミガメをみにだけ来る人、ここで子供とウミガメを探っていて家族の大切さが分かったという人、安産祈願に来られる人、さらに一人で癒しを求めてこられる人もたくさんおられました。当方が思っていた以上に、多様な印象をもって市民がウミガメと接していたことが明らかになりました。

#### (3) 今後の予定

今回の活動によって、大阪湾に進入してきた少なくとも6個体のアカウミガメを保護することができました。通常、この海域で夏から秋にかけて回遊していると、かなりの確率で事故死することが予想されることから、これらを無事に保護することはアカウミガメの保護に実質的な効果があったことは確かです。徳島県の砂浜はかつて日本有数の産卵地でした。しかし、現在では昭和40年代の数十分の一に産卵頭数が減っています。ここ数年は産卵に来ている個体は10頭前後と予想されます。この減少原因の一つに瀬戸内海における事故死があると考えておりますので、今回のような保護が効を奏すれば、それらの産卵地での産卵も増えてくることが期待されます。また、明石市の海岸などでの産卵も復活することが期待されます。

神戸空港のラグーンは、ウミガメを極めて自然に近い環境で飼育することができ、本活動に非常に適している施設でした。この施設の使用を許していただいた神戸市には感謝の意を表します。大阪湾のような船舶の航行の激しい海域に侵入したウミガメを一時的に避難させる試みは、世界で初めての試みです。一方、健康状態に問題のあるカメを収容し、治療する施設は米国などには存在し、活発に保護活動をおこなっていますが、日本にはこのように海洋性野生動物を治療する施設はまったくありません。神戸や関西が海洋動物の保護に関わるという発想は、これまで市民にも行政にもありませんでした。しかし、今回のウミガメ保護を通じて、地球環境問題に貢献する道も関西にあることを行政や市民の皆様にご理解していただきたいと思っております。

本活動には神戸市、(財)大阪湾ベイエリア開発推進機構、カネテツデリカフーズ(株)や多くの神戸市民の方より支援を受けておこなっております。今後も、この活動を継続していくために、さらに多くの方々のご支援をお願いいたします。  
(文・亀崎直樹)



# ウミガメ調査員（ボランティア）の募集

日本ウミガメ協議会では下記の通り、ウミガメの調査員を募集しています。

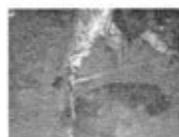
自然の中でウミガメに触れてみたいという方のご参加をお待ちしています。

## A 場所／内容

### 1 和歌山県みなべ町

6月から9月にかけてアカウミガメの産卵調査の手伝いをお願いします。

夜、砂浜を歩いて上陸するカメや孵化する子ガメの調査を行います。



### 2 高知県室戸市

年中実施。早朝と午後にある定置網の操業に立会い、一緒に捕れるウミガメの調査を行い、標識放流します。朝早い仕事ですが、漁師さんに新鮮な魚をもらえることもあります。



### 3 沖縄県八重山諸島黒島

当会付属の黒島研究所の業務を手伝っていただきながら、島の西側にある砂浜でウミガメ調査を行っていただきます。またウミガメのみならずサンゴ礁の生物とどっぷり親しくなれます。

## B 費用

現地までの交通費とそれぞれの施設の使用料が必要となります。みなべと室戸での活動は、事前に大阪事務局（枚方市）での説明会に参加していただけます。

### ○施設使用料

みなべ基地宿泊費・食費1500円/1日、室戸基地宿泊費500円/1日、黒島研究所宿泊費1500円/1日。

## C その他

年齢18歳以上。1は期間内に5日以上滞在可能な方、2、3については2週間以上滞在可能な方を対象とします。また、2については自家用車で行かれた方が便利です。

詳しくは大阪事務局までご連絡ください。

メール info@umigame.org

電話 072-864-0335

ファックス 072-864-0535



■ **オリジナルエコバック 525円(税込み)**

当会オリジナルのエコバックが登場しました。  
片面にはウミガメが海へと旅立っていく姿が描かれています。コンビニや普段のちょっとしたお買い物にご利用できるよう、少し小さめのエコバックです。もちろん、たたんでセカンドバックなどに入れておくこともできます。  
ナイロン製 26cm×32cm 黒地に白のイラストです

メール・faxの他、シータートル グッズ ショップでのご購入が可能です。詳しくは次ページをご覧ください。



■ **現代を生きるための生物学の基礎 亀崎直樹 著【書籍】  
2,100円(税込み)**

日本ウミガメ協議会会長の亀崎の書いたこの本は、教科書というよりも読み物かもしれませんが。現代を生き抜くためには生物学的な考え方が必要です。なぜ遺伝子組み換え作物が問題なのか、DNAやES細胞とは何か、現代の人間社会は動物社会学的にはどのような位置づけにあるのか、人はなぜ糖尿病や痛風に悩むのか等々の問題は生物を学んで考える必要があります。つまり、生きていくには生物学的思考ができないと損をする時代なのです。ところが、高校の生物は暗記の科目として扱われ、その本質を学んだ人はごく僅かです。この本ではその本質をできるだけやさしく解説しています。

筆者は長年予備校「河合塾」でも生物を教えており、その講義内容も満載なので、受験勉強を開始する前にその概要を学ぶ本としても最適です。水族館の飼育係や沖縄での生活、そしてウミガメ研究者を通して考えた生物学に是非、触れてみてください。もちろんウミガメも沢山出てきますし、所々におもしろいコラムもあります。



■ **ウミガメ保護ハンドブック【書籍】 500円(税込み)**

ウミガメの種類や産卵地、絶滅の危険性から保護対策、現場実践ガイドなど、ウミガメやウミガメを取り巻く自然や文化を将来に残すために必要なことがわかりやすく書かれています。情報満載の1冊で、この情報の量と質で500円はかなり破格です！  
ウミガメがどのような生活をしていて、どうしたら守っていくことができるのか、この本を読んで考えてみませんか。

メール・faxの他、シータートル グッズ ショップでのご購入が可能です。

## リボンマグネットを貼ってウミガメ保護

### リボンマグネットとは？

購入すると金額の一部がチャリティ活動に充てられ、その活動を支援する証として「リボンマグネット」を車に貼るというもので、アメリカではすでに全土に渡って広く普及している、個人参加形式のチャリティ活動です。

あなたの愛車にリボンマグネットを貼ってウミガメを守る活動に是非、ご参加下さい。  
同様に、モバイルグッズに貼って海を守る活動支援に参加する、リボンステッカーも販売中です。

リボンマグネット ホヌシリーズは、売上の一部を当会に、リボンステッカーは売上の一部を「サーフライダーファウンデーションジャパン」「日本ウミガメ協議会」の2団体へ均等に寄付されます。

リボンマグネットの詳細は HP (<http://www.ribbonmagnet.jp/index.html>) をご覧ください  
米国MagnetAmerica社リボンマグネット正規代理店 M's DS のHPは<http://www.msdsgroup.com/>です。

\* 日本ウミガメ協議会でも販売を始めました。

# 自宅で出来るウミガメ支援 ～インターネット編～



## Seaturtle goods shopを開設しました



写真のシルバーチャームなど、  
当会メンバーが各地で見つけた  
グッズも紹介しています。1点も  
のありますので、お早めに！

### インターネット（パソコン）でお買い物

日本ウミガメ協議会の提供するグッズがインターネットショップ  
でご購入いただけるようになりました。

各種ウミガメグッズのご購入はもちろん、会費のお支払いやご  
寄付にもご利用いただけます。これまではご購入代金を振り込ん  
でいただく必要がありましたが、代引き、各種クレジットでのお  
支払いもできるようになりました。

<http://seaturtle.shop-pro.jp/> からご来店ください。  
(日本ウミガメ協議会のHPからリンクしています)

### モバイルショップ（携帯電話）でお買い物

携帯電話からもSeaturtle goods shopにアクセスしていただく  
ことができます。

<http://seaturtle.shop-pro.jp/> または左のQRコードを読み取  
ってご来店下さい。



## インターネット募金のご紹介

当会では、YAHOO! JAPANのホームページ上から、「ウミガメ類を保全するための調査支援」、  
「産卵・発生環境（砂浜）保全プロジェクト」をテーマにワンクリック募金のお願いをしています。



### YAHOO! JAPAN ワンクリック募金とは？

YAHOO! JAPANのホームページ上から行えるインターネット募金のことで、  
募金のお礼に当会の提供する壁紙をダウンロードしていただけます。  
(金額は500円～100,000円(税込)の範囲で寄付者が指定できます。)  
購入金額に含まれる消費税は別途納税し、その消費税と同額をYahoo!  
JAPANが補填(ほてん)した後に団体へ送金いたします。

\*募金をするには、Yahoo! JAPAN ID(無料)でのログインと、  
Yahoo!ウォレットへの登録(無料)が必要です。

### ウミガメ類を保全するための調査支援

日本国内では5種のウミガメ類が見られます。そのうち  
最も一般的な種は本州や四国・九州・沖縄で産卵するア  
カウミガメです。しかし、北太平洋のアカウミガメが産  
卵をしているのは日本の砂浜しかなく、日本で産卵する  
アカウミガメがいなくなるのは、北太平洋からアカウミ  
ガメがいなくなることを意味しています。

このアカウミガメをはじめとしたウミガメ類が2004年  
には316頭、2005年には495頭も海岸線へ死んで漂着して  
います。こうしたウミガメ類を保全していくためには、  
産卵をするウミガメがどれほどいるのか、死んだウミガ  
メがどれほどいるのかなど、その現状や生態を知ることが  
必要です。

当会ではそうしたウミガメ類に関する情報を広く集め、  
保全に役立てています。

お預かりした募金は、以下のようなウミガメの保護・  
調査にかかる費用に充てられます。

### ※産卵頭数の調査・研究

現地までの交通費や必要な資材費。また、全国の協力団  
体・個人へ貸し出す専用ノギスや標識用器材の購入など  
に充てられます。

### ※漂着個体の保護・調査

漂着情報を集めるための携帯電話用ステッカーの作成費  
や配布にかかる費用、漂着現場までの交通費・調査経費  
や保護個体の飼育にかかる費用に充てられます。

※漁網に誤ってかかったウミガメの調査・保護  
混獲されたウミガメの種や大きさなどを記録するための  
経費と共に、保護が必要ときに許可を取った上で、放  
流できるようになるまで治療するための費用に充てられ  
ます。

インターネット募金トップ(<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/>)  
環境の保全(<http://volunteer.yahoo.co.jp/bin/dsearch?g=5&b=1&z=c>)  
ウミガメ類を保全するための調査支援  
(<http://volunteer.yahoo.co.jp/donation/detail/177001/>)

## ご寄付を頂いた方々

栄東高校 ピアしっくす 多胡彰郎 照本善造 (株)リンドバーグ 森野由美  
黒須裕子 石井紀孝 松平和子 鈴木慎二 (株)M'sDS (株)エイ出版社 松田七海  
大和ハウス工業(株) 綿野加奈子 ヤフー(株) 大木フミコ 阪本登 和田新平  
清水紀代美 矢部まみ 水谷文 高尾真規子 立川勝義 土井畑公昭 永妻友子  
通事建次 宮形佳孝 阿部盛憲 海鋒陽子 綿貫道代 綿貫慧 齋藤充 吉川信博  
橋詰英樹 宮口光敏 小谷野有加 串本海中公園センター 日下部弘昭 宗像美穂  
樋口伸一郎 後藤清 米田耕作 谷口克之

(順不同・敬称略) 2007年10月1日～2008年4月31日まで

## 事務局の主な動き

(2007年10月～2008年4月末まで)

### 2007年

- 10月19日 島根県隠岐島でアオウミガメの解剖
- 10月27日 志摩半島野生生物シンポジウムにて招待講演
- 11月5日 個体保護のため神戸空港にアカウミガメ放流
- 11月6日 個体保護のため神戸空港にアカウミガメ放流
- 11月16-18日 第18回日本ウミガメ会議種子島会議の開催
- 12月8日 神戸空港で保護していたアカウミガメ6頭を放流
- 12月19-20日 ハワイにて北太平洋アカウミガメ専門家会合に出席

### 2008年

- 1月10日 兵庫県淡路島にて漂着個体の調査
- 1月17日 福井県大飯町にてアオウミガメの調査
- 1月18-26日 第28回国際ウミガメシンポジウムに参加・発表・理事会出席
- 2月16日 神戸空港にてウミガメのふれあい及び展示を実施
- 3月10日 「美ら海を守るシンポ：島から砂浜が消えそうだ！」で基調講演ほか  
(於：沖縄県那覇市、主催：財団法人亜熱帯総合研究所)
- 3月12日 協議会ゼミの開催
- 3月15日 徳島県の美波町日和佐公民館にて美波町と共催で「日和佐うみがめ  
博物館特別講演会：ウミガメ調査50年でわかったこと～美波町・  
大浜海岸アカウミガメの産卵を増やそう～」を開催
- 4月10日 ハワイで開催された米国政府、西部太平洋区漁業管理評議会の  
ウミガメ諮問委員会に出席
- 4月19-20日 アースデイ東京2008にブース出展
- 4月20日 「EARTH DAY 2008 ～漂流物～からのメッセージ」(Patagonia大阪と  
ビーチクリーン土佐の共催)にゲスト参加
- 4月25日 朝日新聞社主宰「第9回明日への環境賞」贈呈式に出席  
(宮崎野生動物研究会が受賞)

## STSmembers募集中

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。

日本ウミガメ協議会では、当会をサポートして下さるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非、入会をお誘い下さい。

入会金：なし、年会費：個人会員3,000円、学生会員1,000円、団体会員10,000円、特別会員100,000円  
会員特典：オリジナル会員証&グッズ、機関誌

### 携帯電話用ウミガメステッカーの配布

当会では、少しでも多くのウミガメの情報を得るために、当会の連絡先がプリントされた携帯電話用ウミガメステッカーを配布しています。現在、金・銀・赤・緑・黄の5色があります。もし、海岸や海でウミガメの産卵や死体を見つけた時は、これを見て協議会にお電話下さい。

ステッカーを貼って下さる方、お友達に配っていただける方は、必要枚数をご記入の上、80円切手を貼った返信用封筒をお送り下さい。また、このステッカーを作成するための募金も募っております。

皆様のご協力をお願いします。



携帯用ステッカー

### 編集後記

まずは皆様にお詫び致します。今回も発行が大幅に遅れ、ようやくお手元に届けることができました。今回の内容はいつもより濃くなっていますので、それでお許し頂ければありがたいのですが・・・

発行が遅れている間に、各地から産卵が始まったとの連絡が入りだしました。今シーズンは今のところ順調な様子。このまま産卵巣数が増えていくことを願ってやみません。そういえば最近、変わった連絡がありました。川でウミガメが死んでいるというのです。なぜ川にウミガメが？河口から12kmも上流だとのこと。急いで現場の香川へ車を走らせました。調査の結果、人の手で連れてこられたことなど、色々なことが分かりました。やはり現場で調べるといことは事実や本質を知る上で重要です。また、今回の調査では多くの人の協力があり、中には仕事を中断して手伝ってくれた人たちもいました。そうした香川の人の優しさや、讃岐うどんのおいしさも知ることもできたのです。

さて、話は変わりますが、マリンタートラ編集部では表紙の絵を募集しています。様式は特にありませんので、お気軽に日本ウミガメ協議会事務局までお送り下さい。

編集担当：石原 孝

### マリンタートラ（日本ウミガメ協議会機関誌）

発行日 2008年6月15日  
発行 日本ウミガメ協議会



〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302  
電話：072-864-0335 FAX：072-864-0535  
URL <http://www.umigame.org> E-mail [info@umigame.org](mailto:info@umigame.org)